

## 「在宅福祉ボランティアで支えあって」

こばやし たづこ  
小林 田鶴子

1937年(昭和12年)  
三重県松阪市生まれ  
西葛西在住



### ■ ああ東京弁もいいな

わたしが生まれたのは三重県松阪市。地元では「まっつあか」、東京弁でいうと「まっつざか」。そういう言葉で話さないよそ者だと思われるの。父は農家だった。わりと裕福で、商業科を出て、農家を継がなかった。母は松阪の「牛銀」という肉の卸の長女。使用人がいっぱいいる環境で育った。女の人は普通、裁縫をやったんだけど、母はそろばんやったの。結婚して、大阪で牛銀の支店をやった。その後、松阪にもどってきた。子どもは女ばかりの6人目が私、7番目に男が生まれ女7人男2人の9人きょうだい。母は嫁にくる時、牛銀の使用人だった「さーちゃん」を一緒に連れてきた。さーちゃんは一生独身で母と一緒にいたけど、戦後、大阪にアパート借りて一人暮らし。最後に看取ったのがわたしたちきょうだい。

高校3年の時に父が病気になって、学校をやめて、地元のパールメッキ工場で働いたんだけど。21歳の時、彼氏もないし、何やっても「牛銀のたづ子、たづ子」で閉塞感もあってね。「ああ東京弁もいいな」って、姉を頼って東芝の下請け会社の寮に入って、すぐに26人ぐらいの寮長になったの。わたしは事務をやって、他の人は朝8時から夜8時まで働き詰めで、月2回の休み。26歳の時、友だち3人で寮を出たんだけど、ふたりとも結婚してそこから出ていっちゃうわけ。きょうだいで結婚してないのは、わたしだけ。30代になって遅めの寿退社。相手は会社で知り合った夫。長男だったから夫の横浜の実家に離れを建ててもらって暮らしたの。

### ■ 遊んでくれるおばさん

親戚の人たちから「長男の嫁だから1人くらい産まない」というのがあったりしたんだけど、4年たったら夫の弟に子どもができたので、離れを譲ってわたしたちは横浜の杉田というところに引っ越した。近所の子どもを連れて、ツクシを採ったりして遊んだら「遊んでくれるおばさん」って集まってくるわけ。出産を控えた近所の奥さんから「あかちゃんを見て」と頼まれたので夫に相談したら、「自由に休めないぞ」と言われて、断るためにもパートで

働き出したの。お医者さんの手伝いの仕事で、とっても良くしてもらったの。昭和55年(1980)江戸川区の西葛西への引越しを機にやめたの。

西葛西に引越してから、45歳の時、認知症が始まりかけた姑を義弟のところから引き取って、江戸川区でパートをしながら面倒をみたの。口論になった時、姑が「わたしは死んだら誰を頼ればいい」と言うから「お母さん、わたしは長男のところに嫁に来たんだから、死に水はわたしがとるつもりだから安心してここに居てちょうだい」と言ったら顔が穏やかになったの。夫とケンカした時「わたしの為にケンカしないで」と泣いて割って入ってくれたの。ああ、認知症でもわかるんだ、気をつけなきゃと勉強させてもらった。姑のことでは、清新町の保健所や、なぎさ楽苑に相談にも行ったの。姑が骨折して入院。正月2日に孫が見舞いに来てお年玉渡して3日に亡くなったの。「小林さんはよく考えて看病してくれるので、わたしたち参考になる」と。お世話になった看護師さんのサポートなどがあり、最期を看取れたというのがわたしの親孝行のつもりです。どこかでお返ししたいというのがあったの。

### ■ はじめてボランティアを

江戸川区ではじめてボランティアをしました。「社協に登録すれば連絡くるからボランティアやれるよ」って教えてもらい、わたしは人が好きだし、子どもも好きだし、登録したの。しばらくは団体に入らないで個人でボランティアしようと思っていたんだけど、石丸さんという「在宅福祉グループ」の代表と出会ったの。5周年誌をパソコンで打つ手伝いをしているうちに、平成2年(1990)に「在宅福祉グループ」に入ったの。

「在宅福祉グループ」は、石丸シヅ子さんが昭和60年(1985)に10人ぐらいで立ち上げた。自宅療養者の介護や、身体障がい者・障がい児が自宅で留守番をする時の介助もした。病院・保健所の通所介助が中心だったの。障がい者の作業所「菜の花」「かもめ」のバザーの手伝いなんかも。平成5年に各保健所で中途障がい者の方たちのリハビリがあり、そこを終了した方たちが保



江戸川区  
聞き書き  
研究会

聞き書き研究会とは、江戸川区で生活し、江戸川区を愛し、強く逞しく生きた女性の姿を江戸川区女性センターの区民ボランティアが「聞き手」となって編集し、文書として残すための活動です。

健所ごとに「リハビリ自主グループ」を立ち上げたの。そのグループの自宅介助、外出、旅行等の手伝いをしたの。当時ボランティア活動者が各地域で説明会を開き、会員も徐々に増えてきました。平成20年まで続けました。

平成7年から、「在宅福祉グループ」で宅配弁当を始めたの。きっかけは、ある障がい者に「今日で3日、冷蔵庫から引っぱりだして同じものを食べてる」と言われたこと。そんな時、わたしが足首の骨を折ったの。ギプスが取れるまで寝ていたから、友だちのおかずの差し入れがあって大助かり。ご飯だけ炊いておけば、夫にも食べさせられるし、自分も食べられる。こんなことをしてあげたら喜ぶだろうと思って。月2回だったけど、グリーンパレスの調理室を借りられた。機材は「在宅福祉グループ」のバザーで貯めてあったお金を使わせてもらい、保健所からは「毎年全員の検便を出して」と。調理師の免許をもった人もボランティアに来てくれた。グリーンパレスでは配食車9台の駐車の特典を頂いてもらったりしたの。

週土曜でした。今年(2018)3月に終わったの。25名で始めて50名になったの。タワーホールのお別れ会で「90歳までがんばって生きようね」と締めようとしたら、みんな90歳前後の人数ばかりだったので、あわてて「100歳まで」と言った。

在宅福祉グループの今は特別養護老人ホームで、洗濯物整理、ホーム喫茶、イベントの移動介助や障がい者グループの行事の手伝い。“ムリなくムラなく末長く”をモットーに、年1度の親睦旅行など、仲間で支えあいながら続けることができてるの。平成23年(2011)、「在宅福祉グループ」の代表を辞めて、相談役になりました。

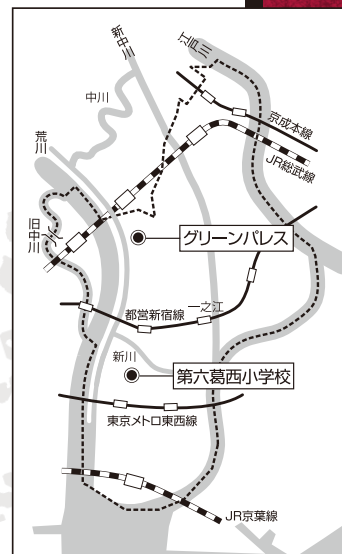
## このまま活動できたら

わたしは6番目に生まれてきょうだいがいっぱいいたから、ケンカしないように調整するのがわりと得意かな、と思うところがある。無口だった父が「お前は仕事を任せると一日中でもやるとるなあ」という性格だった。他のきょうだいは途中でいなくなっちゃうの。でも、黙っていたら存在忘れられちゃうから、それなりにおしゃべりです。

わたし、その時知らないことはみんな勉強になると思っちゃうの。在宅福祉グループの他にも、平成2年(1990)から平成24年までふれあい訪問員もやりました。夫に何の相談もせず、保護司を平成4年に引き受け、平成25年75歳で辞めたの。更生保護女性会はそのあとずうっと今でも続けているの。江戸川に会員は600人いるの。江戸川区の水がわたしに合って、江戸川区の人が受け入れてくれたんだと、感謝の気持ちでいっぱいです。

平成19年(2007)からすすくすく学校のクラブマネージャーを第六葛西小学校でやってます。ボランティアで関わってきた方に来てもらって、いろんな体験をしてもらいたいと思っているの。「コバちゃん、コバちゃん」って。遊んであげてるつもりなんだけど遊ばれてるみたいなの。

平成25年(2013)に在宅福祉グループのボランティアの仲間も高齢で辞める人がでてきて、そんな方たちの集まれる場所をつくれたらと特養ホームに相談したら、「社会貢献」というのがあるからと月1回集まれる場所を提供してくれたの。「一人で参加できる人」や「認知症になりたくない人集まれー」ってピラ配ったら、25人が参加してくれて4年。今は34人になってるの。脳トレ、歌など4人のボランティアの世話人がいる「おしゃべりクラブ」を楽しく続けているの。このままいけたらいいなと思っております。これからも笑顔を届け、元気をもらって、続けていきたいと思っています。



◆福祉ボランティア団体協議会 30周年記念式典祝賀会にて

月2回から毎週になった時も、調理室を利用していた他の団体が曜日を変えてくれたりして、本当にいろんな方のお世話になったの。平成20年にドライバーの高齢化もあって宅配弁当はやめました。O157の問題があった時、自主的に1回休んだだけだったの。400円で温かい味噌汁と工夫を凝らしたお弁当で、温かいうちにお昼のお弁当を届けることができた。そのあとはグリーンパレスに通える方で、昼食会を5年間続けて、メンバーの高齢化もあって平成25年で止めました。その間無事故だったのが、何よりの喜びです。

平成9年(1997)、「在宅福祉グループ」の2代目の代表になったの。わたしより古いボランティアやわたしより若い人も、子育てなどで忙しい中、わたしは子どももいなくて暇だったの。夫は6時5分に家を出て夜9時頃帰ってくるという生活だったから、10年くらいわたしが何をやっているのかわらなかった。

平成12年(2000)に介護保険制度が制定され、在宅療養者や高齢者の介護にはホームヘルパーが入るようになるの。この年、清新第二小学校の一角の清新ふれあいセンターで江戸川区の委託事業「熟年ふれあいほっとサロン」を手伝った。介護を受けてなくても「人と話したい」方をバスで迎えに行き、ワイワイガヤガヤ。500円支払って昼も一緒。毎